

活動レポート

橿浜郷土史会

今回は、橿浜地区の郷土史研究に取り組んでいるグループをご紹介します。



会長 村井 洋一さん

1. 会の成り立ち等について教えてください。

1978年に歴史好きな方が集まり、地域の歴史の伝承を目的として設立されました。会員は橿浜居住者だけでなく、橿浜出身者や、先祖に橿浜出身者をお持ちで自分の家のルーツを調べるために入会された方等の他地域居住者も在籍しています。

2. 現在はどのような研究を行われていますか。

橿浜にある居守天満宮、杵島発祥のふぐの延縄漁、岩徳線線路上の川が流れていない場所に架かる鉄橋の設置経緯について等、様々なテーマについて研究を行っています。昨年は戦国武将・真田幸村の息子とされる真田幸晴についての研究に特に力を入れました。

3. 真田幸晴の研究について教えてください。

以前から真田幸村の息子が橿浜に住み着いたという伝承はあり、橿ヶ浜駅前の原江寺に「幸村幸晴君夫婦之墳」と刻まれた石碑があったり、橿ヶ浜駅前の橋本医院に真田家の家紋「六文銭」印の入った鎧兜が家宝として伝わっていたりはしたものの、幸晴の名は真田家の系図に記されておらず、伝承を裏付ける資料もありませんでした。

そんな中、幸晴について記された「譜録 吉村理右衛門」という資料を2016年1月に会員が山口県文書館で見つけました。（※吉村理右衛門は幸晴の孫）そこには幸晴の生涯について伝承よりも詳しく記されており、伝承を裏付ける新たな証拠となりました。それがちょうど真田幸村を主人公にした大河ドラマ「真田丸」の放送開始時期と重なっていたため、研究に熱が入りました。

「譜録 吉村理右衛門」は全て漢字で記されている上、主語の抜けや肯定否定の判断がしづらい部分もあり、読み解いて現代表記に改めるのには時間がかかりました。なお、現代表記に改めた文章はパネルにして行事で展示したり、会のHPに掲載したりしています。

※真田幸晴の伝承について：

大阪夏の陣で父・真田幸村が敗れ、乳母達と共に大阪から九州・小倉へ船で向かう途中で嵐に見舞われ馬島（大津島）に流れ着き、その後平野浦（現・周南市平野）で3年、小倉で3年過ごした後、栗屋にある教学院（吉祥院の前進）で身を潜めた。その後は追手から逃れるため姓を吉村、河村と変え、栗屋で鍛冶屋を営んだ。現在、栗屋には鍛冶屋河内という地名や鍛冶屋川という名の川が残っている。



橿ヶ浜駅前の原江寺にある「幸村幸晴君夫婦之墳」と刻まれた石碑



石碑の近くにある、台座に真田家の家紋「六文銭」を刻んだお地蔵様

4. 榑浜地区や徳山駅構内に真田家の家紋「六文銭」ののぼりを立てられていましたね。

まず始めに原江寺と橋本医院にのぼりの設置を依頼しました。その後、榑ヶ浜駅へ設置の依頼をしたところ JR の方から“ぜひ徳山駅に”とのお言葉をいただき、のぼりとともに日刊新周南掲載の幸晴に関する記事を使ったパネルを徳山駅へ設置することとなりました。徳山駅では大変反響があったらしく、嬉しく思います。なお、こののぼりは真田家の根拠地・長野県の上田から取り寄せています。



徳山駅構内でののぼりとパネルの設置の様子

5. 2016年12月18日～2017年1月15日、周南市立中央図書館にて「真田幸晴展」を開催されていましたね。

11月に榑浜公民館の文化祭で研究成果の発表と伝承探索ツアーを行い、そこで幸晴に関する行事の開催は一区切りとなる予定でしたが、ご縁があり図書館での展示のお話をいただき、大河ドラマ「真田丸」最終回の放送に合わせての開催に至りました。この行事では幸晴に関する資料を展示するほか、橋本医院に家宝として伝わる「六文銭」印の入った鎧兜の展示も行いました。年齢・性別問わず様々な方に訪れていただいたようで、私の元には広島や島根の方からも問い合わせがありました。

6. 活動で心がけていることや、気を付けていることはありますか。

“こうしなければいけない”ということはあまり気にせず、そのときの興味次第で自由に研究を行っています。そのためか、会員から自然に声が上がってきて研究テーマが決まることがよくあります。私は“ジャズのスリット”で、とよく言っています。

8. 今後はどのようなことに取り組まれる予定ですか。

真田幸晴についての研究も進めてゆきますが、他には明治時代まで榑ヶ浜駅前に所在し廃仏毀釈により解散となった快照院というお寺についての研究を進めてゆきたいと考えています。

また、町は年々変化してゆき、10年前とは全く違う様子を見せることもあります。加えて、現在では昔の話について詳しい方が少なくなっており、歴史を知る手がかりも得にくくなっています。そのため、今のことを後世に残し伝えていくことも大切にしてゆきたいです。

7. 活動の中で印象に残っていることや、嬉しかったことはありますか。

年1回、榑浜小学校3年生の児童へ史跡を案内する授業を行っていますが、そこで児童たちが昔の話に興味を示してくれると嬉しく感じます。また、私が町中で史跡探訪をしている様子を見かけて声をかけてくれたり、一緒についてきてくれたりする児童がいることに関しても嬉しく思います。

9. 皆さんに伝えたいことをどうぞ！

地域の歴史を知ることによって新しい発見をする喜びが得られますし、同時に地域のことを今以上に好きになることもできます。戦前・戦後のこと等、現代にも大変貴重なお話が残っていますが、そのような歴史を紐解いてみると心が豊かになり、面白いということをお伝えしたいです。

◆榑浜郷土史会◆

TEL 0834-25-0088(村井)

メール kiemon26@hotmail.com

HP <http://book.geocities.jp/kusikyodosi/>

会のHPに沢山の資料や写真を掲載されています。ぜひご覧ください！